



美しい海を、未来へ ～国境を越えた協力～

須永 光玲

私がエッセイに込めたおもい。それは、自分の生まれ育った三重県の海岸清掃について発信し、一人でも多くの方に知っていただきたいと思ったことです。三重では、ウミガメが海岸に戻ってきてくれるよう、毎月定期的に多くの人々が清掃をしています。また三重からカンボジア等に単身赴任中の人たちとオンラインでつなげ、一緒に清掃する日もあります。海には国境がなく、全世界につながっているのです、日本での取り組みが海外に少しずつ広がってほしいのです。

今回インドネシアを訪れる前に現地の海洋汚染について調べたところ、インドネシアは経済成長で暮らしが豊かになる一方、ごみ問題が深刻だと知りました。多くのプラスチックごみを海に排出し、海洋汚染がひどいため、日本はインドネシアの環境問題の改善を支援してきたことを知りました。そして、私たちはバンドン市のリサイクルセンターを訪問しました。この施設では、循環型社会の実現に向けて、日本とインドネシアが連携して生活環境を変えようとする様子を見ることができました。

私は、きれいな海を汚したくないし、海の生き物がプラスチックごみを食べてこれ以上苦しめないよう、インドネシアで海洋ごみ問題が改善されることを心から願っています。ごみ問題は一国では解決できません。全世界が協力し合えば、必ず地球を救えると信じています。さあ、美しい地球の海を取り戻すために、世界のみんなで手を取り合いませんか。